

全史料協第31回福井大会へのおさそい

福井県文書館長 出口 政司

バトンを引き継いで

昨秋、山口県で開催されました全史料協第30回記念全国大会におきまして、次回開催地を福井県がお引き受けすることになりました。

日本で最初の文書館として、また第1回の全史料協設立大会の開催地として資料保存とその利用サービスに最も確固とした活動を蓄積されてきた山口県文書館に比べると、本県の文書館は平成15年2月に開館したばかりで様々な側面で、経験の浅い若い館でございます。

山口大会では、山口県文書館、県教育委員会、県地方史学会のみなさま、そして全史料協の関係委員会のみなさまの大会運営へのきめ細い準備と暖かい配慮を拝見しました。あらためてその尽力に感謝申し上げるとともに来年の大会開催地としての責任の重さを新たに感じております。

福井県の歴史資料

越前・若狭からなる福井県はご存知のように

日本海に臨み古くからアジアの諸地域や国内諸地域との「ひと・もの・文化」の交流の拠点となってきました。

三方町の鳥浜貝塚から出土した遺物からは、すでに縄文時代からその交流の範囲が日本海にとどまらず東シナ海にまで広がっていたことがわかります。

たとえば、古代律令国家への若狭からの塩や魚介類の貢納が知られる木簡類、条里制のプランに基づいて麻に描かれた越前の東大寺の荘園図、そして坂井郡河口荘や坪江荘、遠敷郡太良荘などの荘園支配やそこで働いたたかな荘民の動きを伝える興福寺や東寺など寺社の文書・記録類などは県内に残されたものではありませんが、福井県のあゆみを知るうえでたいへん貴重な資料となっています。

さらには中世以降、日本海運での越前・若狭の海民の活躍を示す浦々の資料、太閤検地帳をはじめとする支配と生活の単位として蓄積され、引き継がれてきた村々の資料、越前松平家



福井県文書館

や小浜酒井家などの藩政資料は、福井市立郷土歴史博物館、小浜市立図書館、県立図書館などの県内の資料保存利用機関や福井県文書館で閲覧いただける身近で豊かな資料です。

しかし反面、残念なことですが、1881年（明治14）の置県以来第2次世界大戦に至る本県の公文書は、1945年（昭和20）7月の福井空襲と3年後の福井震災とその直後の水害によってほとんどが失われております。同様に古文書も福井市街地や坂井郡内など被災地の残り方は極端に少なくなっています。

昨年7月の福井豪雨の経験から、また10月の新潟県中越地震を目の当たりにして、災害時の、あるいは災害を受けにくい資料保存のあり方が問われているように思われます。

資料情報を蓄積・提供する文書館

一福井県文書館の特徴一

こうした事情から開館2年の当館が所蔵する資料は、それほど充実したものではありません。

収集・保存にあたっては、保存期間が終わった県の公文書の中から歴史的に価値のあるものを選別・収集する公文書と、古文書その他の記録の2つの柱で進めていますが、後者の古文書においても、県史編さん事業で撮影したマイクロフィルムによる複製資料が大半を占めています。

古文書資料のなかには一般的に古文書と考えられている近代以前のもののみならず、明治期以降の新しい時代の資料も少なくありませんが、一般県民にわかりやすい表現として「古文書」と総称しています。当館ではこうした古文書類をむやみに収集するのではなく、過疎や所蔵者の高齢化などによって散逸の危機にあるものを優先して受け入れています。これは、資料をそれ自体が蓄積されてきた地域から引き離す

ことなく保存・活用することが重要であると考えられるからです。

そして同時にデジタル撮影により資料情報を収集・蓄積し、収蔵資料目録データベースのWeb上での公開をすすめています。11月の大会の際には、ぜひ当館にも足をのばしていただきたいのですが、あわせてご自宅や職場からホームページも御覧いただいて、使い勝手などの感想をお知らせいただければありがたいです。

大会会場は、福井市内の中心部の福井県国際交流会館を予定しております。

町村合併の進行とともに、自治体財政の危機的な状況から文書館の財政も極めて厳しいものとなっています。全国各地から特色ある実践や課題をお持ちのみなさまに福井県に集っていただき、活発な議論が展開されることを期待しております。